



令和 8 年

6 月 8 日（第 4 号）

学校長 村松 章史



## 保小中合同引き渡し訓練へのご参加 ありがとうございました

5 月 22 日に行った「保小中合同引き渡し訓練」では、保護者のみなさまのご協力をいただき、所期の目的を達成することができました。事後に行ったアンケートには、改善や要望の声もいただきましたので、今後の検討課題とさせていただきます。

比較的災害が少ないと感じる山梨県ですが、昨今の非常変災は私たちの想定を超え、常識を覆されるものが多くなっているように感じます。私たちの防災に対する考え方や持つべき危機感も、最新の状態にしていく必要があるように思います。

### 「釜石の奇跡」に学ぶ

釜石東中学校の生徒たちが自ら避難行動を起こしました。その行動を見て近隣の小学生も一緒に高台に向かって走り始めました。中学生たちは近隣の保育園児の避難も手伝い、小学生の手を引きながら逃げました。

第一避難場所に到達したものの、がけ崩れの危険を感じ、迫り来る津波を目撃した生徒が、さらに高台への移動を提案します。そして第二避難場所に全員が避難完了した直後、第一避難場所は津波にのまれたのです。

中学生たちが自らの判断でこのような行動がとれたのはどうしてでしょうか。三陸地方には古くから「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。「てんでんこ」は「それぞれに」を意味します。つまり、「津波が来たら、各自でバラバラに逃げろ」という教えです。

「津波てんでんこ」は「自分勝手に逃げる」という意味ではなく、たとえば家族であれば「家族が皆それぞれの場所から必ず逃げる」「互いに信頼し合っている」という家族の絆が前提にあります。「親子が互いに必ず逃げると信じ合っている」、こういった考え方が、「地震や津波が起きたときにどう対処するか」、中学生に浸透していたと考えられます。

釜石東中学校で行われている防災教育（避難行動）には 3 つの原則があるそうです。

- ① 想定にとらわれない ② 最善を尽くす ③ 率先して避難する**

このことは、どんな防災対策にも通じる基本的な考え方ではないでしょうか。

市川三郷町はこの間、大きな災害が起きていません（私が中学生だった時代に、台風による大水が発生し、床上・下浸水となった地区が複数あった記憶がありますが）。町が作成するハザードマップ上では浸水想定区域が示されていますが、「そんなことは起きない」と考えている人も多いかも知れません。ですが日本全国で起きている自然災害は、常に想定を超えています。実際に災害が起きたとき、または災害の危険が高まったときに、想定を疑い、最善を尽くし、自分から行動を起こすことが周りの人の行動にもつながり、被害の発生を食い止めることにつながるのかも知れません。

